

さいたまきょういく しんこう かん たいこう 埼玉教育の振興に関する大綱

さいたまけん こども 埼玉県のすべての子供たちへのメッセージ

さいたまけん ち じ おおのもとひろ
こんにちは。埼玉県知事の大野元裕です。

わたし みな おな ねんれい ころ おも だ けいたい
私が皆さんと同じくらいの年齢の頃を思い出してみると、携帯
でんわ しぜん なか おも あそ いま
電話やパソコンもなく、自然の中で思いっきり遊んでいました。今は、
ともだち れんらく と あ がくしゅう
スマホで友達と連絡を取り合ったり、パソコンで学習したりするのは
あ まえ あそ ひと おお
当たり前、遊ぶのはゲームという人が多いですね。

しゃかい へんか ぎじゅつ しんぽ みな おとな
社会の変化や技術の進歩はすごいスピードです。皆さんが大人にな
ころ しゃかい
る頃には、どのような社会になっているのでしょうか？ロボットやAIの
ふきゅう さら ちきゅうおんだんか にほん じんこうげんしょう がいこくじん ぞうか
普及、更なる地球温暖化、日本では人口減少と外国人の増加など
へんか かんが
など、いろいろな変化が考えられます。

みらい こた ひと じだい こた よそく じだい
そんな未来は、答えが一つではない時代、答えが予測できない時代に
なに し あたら まな ちから
なります。何を知っているかということよりも、新しいことを学ぶ力
まわ ひと きょうりょく もんだい かいけつ ちから たいせつ
や周りの人と協力して問題を解決していく力が大切になります。

にんげん か しごと い
AIが人間に代わって仕事をするようになっていっていますが、AI
つか あたら つく だ かのう
を使いこなして、新しいものを創り出すことも可能となります。これ

ちから みな み つ わたし おとな
らの力を皆さんが身に付けることができるように、私たち大人は

せい いっぱい しい えん
精一杯支援していきます。

みな ねが みな ひとりひとりちが よ こせい
皆さんにはお願いがあります。皆さんは一人一人違った良さや個性を
も ひと くら じぶん たいせつ どうじ た
持っています。人と比べることなく、自分を大切にすると同時に、他の

ひと そんなよう こま ひと よわ あたた つつ
人をも尊重してください。困っている人や弱いものを温かく包み

こ じゅうなん こころ も おも みな ひとり のこ
込む柔軟な心を持ってほしいと思います。皆さんは、一人も残すこ

ぜんいん さいたまけん だいじ たから
となく、全員が埼玉県にとって大事な「宝」です。

ちか しょうらい さいたまけん そだ みな しゃかい さまざま ばめん かつやく
近い将来、埼玉県で育った皆さんが社会の様々な場面で活躍さ

こころ きたい
れることを心から期待しています。

1 これからの社会において育成すべき「人財」

つぎ じんざい いくせい めざ
次のような「人財」を育成することを目指します。

みづか ちから じんせい き ひら じぶん じんせい まんぞく しょうがい
(1) 自らの力で人生を切り拓き、自分の人生に満足できる生涯

おく
を送ることができる

ひと きほん み つ
(2) 「ならぬことはならぬものです」といった人としての基本を身に付
けている

(3) 異なる考 えや多様な価値を受け入れることができる広い視野と

寛容な心を持っている

(4) 「世のため、人のため、後のため」という公の心を持ち、地域

や埼玉そして日本の将来を考えることができる

(5) 郷土や我が国の歴史、文化を誇りに思い、世界から尊敬される

2 施策の根本的な方針

次の7つの根本的な方針に基づき、「人財」を育成します。

(1) 確かな学力と変化の激しい社会を生き抜く力を育成します。

ア 変化の激しい社会において新しい価値を生み出す源は、

創造力です。そして、一人一人が創造力を身に付けるためには、

基礎学力が大切です。そこで、子供たちが学習内容をきちんと

と身に付けているか、授業ごと、単元ごと、学期ごとに繰り返し

確認することを大切にしていきます。さらに、「読む」と「聞く」

という力に加えて、「書く」と「話す」という力を強め、発表

や表現をする力を身に付けるようにしていきます。

しゃかい へんか たいおう ろんりてき しこうりよく じぶん
イ 社会の変化に対応するためには、論理的な思考力や自分で

もんだい かいけつ のうりよく ひつよう
問題を解決していく能力が必要です。そのためには、

きょうしよくいん こども いっぽうてき おし こ こども
教職員が子供たちに一方的に教え込むのではなく、子供たち

どうし まな あ そうぞうりよく やしな みずか まな いよく たか
同士が学び合い、想像力を養い、自ら学ぼうとする意欲を高

まな かいかく すす
めるような「学びの改革」を進めます。

き そがくりよく ろんりてきしこうりよく もんだいかいけつりよく み つ
ウ 基礎学力と論理的思考力、問題解決力が身に付いたかを

けんしょう ひとりひとり がくりよく の かくにん かいぜん
検証するためには、一人一人の学力の伸びを確認し、改善に

ひつよう ぜんこく はじ じっし
つなげていく必要があります。さらに、全国で初めて実施した

ひとりひとり がくりよく ついせき けんがくりよく がくしゅうじょうきょうちょうさ
一人一人の学力を追跡する県学力・学習状況調査を

おこな けっか ぶんせき かつよう きょうしよくいん おし ちから こうじょう
行い、結果を分析・活用して教職員の教える力を向上さ

せします。

ゆた ところ すこ からだ いくせい
(2) 豊かな心と健やかな体を育成します。

ひとりひとり のうりよく かのうせい かいが ゆた
ア 一人一人がその能力と可能性を開花させるためには、豊かな

にんげんせい しゃかいせい み つ ひつようふかけつ ひと
人間性や社会性を身に付けることが必要不可欠です。つまり、人

やさ しんせつ じぶん いや ひと
には優しく親切に、自分がやられて嫌なことは人にはしないとい

うことです。そこで、^{りんかんがっこう りんかいがっこう しぜんたいけん}林間学校や臨海学校などの自然体験、

^{しゃかいたいけん しょくばたいけん こども せつさたくま きかい じゅうじつ}社会体験や職場体験など子供たちが切磋琢磨する機会を充実
します。

イ ^{ふとうこう こうこうちゅうとたいがく こども おお}いじめや不登校、高校中途退学などは、子供たちにとって大き

^{もんだい かだい かか こども ひとりひとり}な問題です。そのような課題を抱えた子供たち一人一人にもその

^{のうりよく かのうせい かいか て こう}能力と可能性を開花できるようあらゆる手を講じなければなり

^{きょうしょくいん せんもんせい たか せんもんか}ません。そこで、教職員が専門性を高めつつ、専門家と

^{きょうりよく こども ぜんりよく しえん}協力しながら、子供たちを全力で支援していきます。

(3) ^{さまざま かだい かか こども きょういく つう しえん}様々な課題を抱えた子供たちに教育を通じて支援します。

^{けいざいてきかくさ かてい きょういくりよく ていか はったつしょうがい こども}経済的格差や家庭の教育力の低下、発達障害など、子供た

^{かか さまざま かだい のうりよく かのうせい め つ と}ちが抱える様々な課題により、その能力と可能性の芽が摘み取ら

^{にほんいち しょうがくきんせいど}れることがあってはいけません。そのため、日本一の奨学金制度を

^{すす せいかつほ ごじゆきゆうせたい せいかつこんきゆうせたい こども}進めるとともに、生活保護受給世帯・生活困窮世帯の子供た

^{たいしょう がくしゅうしえん おこな こども}ちを対象にした学習支援を行うことで、すべての子供たちにチ

^{あた のうりよく かのうせい かいか きょういく つう}ャンスを与え、その能力と可能性を開花できるよう、教育を通

^{しえん おこな}じた支援を行います。

(4) しゃかい へんか たいおう こうこうきょういく すす 社会の変化に対応した高校教育を進めます。

ア しゃかい へんか たいおう みりょく こうこう つく じんざい 社会の変化に対応した魅力ある高校を作ることが「人財」

いくせい ひつよう あら とうし おこな さいへんせいび 育成には必要です。そのため、新たな投資を行いつつ、再編整備

おこな けんりつこうこう かつせいか とくしよくか すす を行い、県立高校の活性化や特色化を進めます。

イ か しんてん たいおう へんか はげ しゃかい グローバル化の進展に対応するには変化の激しい社会をけん

いん こくさいかんかく も じんざい ひつよう せかい 引できる国際感覚を持った「人財」も必要です。そこで、世界の

てつがく げいじゅつぶんか ふか きょうよう み つ せかい 哲学や芸術文化などの深い教養を身に付けることや世界の

こうりゅう つう いくせい リーダーと交流することを通じてリーダーシップを育成します。

ウ あす さいたま さんぎょう にな さんぎょうこうぞう へんか たいおう 明日の埼玉の産業を担うため、産業構造の変化に対応で

じんざい いくせい でんとうさんぎょう けいしゅう じんざい きる「人財」の育成とともに、伝統産業を継承する「人財」

いくせい じゅうよう こうど しょくぎょう じんざい いくせい の育成も重要です。そこで、高度な職業「人財」を育成す

だいがく こうとうきょういくきかん しんがく せんもん るとともに、大学など高等教育機関への進学もできる専門

こうこう めざ 高校づくりを目指します。

(5) かてい ちいき きょういくりょく こうじょう そうご ささ あ きずな 家庭・地域の教育力を向上し、相互に支え合うための絆づ

すす
くりを進めます。

しょうしこうれいか かくかぞくか かていこそだ なや
ア 少子高齢化や核家族化により、家庭では、子育てについて悩み

ふあん かか こりつ じょうきょう あんしんこそだ
や不安を抱え、孤立している状況もあります。安心して子育て

かんきょう ひつよう おやせだいこそだ
できる環境が必要です。そこで、これから親になる世代や子育て

ちゆう おや たい おや ちから たか おや がくしゅう
中の親に対して、親としての力を高めるため、親の学習を

じゅうじつ
充実させます。

きょうしよくいん ほごしゃ ちいき ひとびと て と あ ひと
イ 教職員、保護者、地域の人々が手を取り合い、一つとなって

けんみんぜんたい こども そだ かぞく きずな ちいき きずな ふか
県民全体で子供を育てることで、家族の絆や地域の絆が深め

がっこう きょういくりよく たか がっこうおうえんだん
られ、学校の教育力も高まります。そこで、学校応援団を

かてい ちいき れんけい きょういくかつどう いっそうじゅうじつ
はじめ、家庭や地域と連携した教育活動を一層充実します。

しょうがい まな しえん すいしん はか
(6) 生涯にわたる学びを支援し、スポーツの推進を図ります。

しょうがい たよう まな じんせい ゆた ちいき
ア 生涯にわたる多様な学びは、人生を豊かにします。地域にお

さまざま ば しょうがい がくしゅう かんきょう せいび
ける様々な場で、生涯にわたって学習できる環境を整備す

まな せいか い しえん
るとともに、学びの成果を生かせるよう支援していきます。

ひとびと やす かんどう い よろこ ぶんかげいじゅつ
イ 人々に安らぎや感動、生きる喜びをもたらす文化芸術は

たいせつ ぶんかげいじゅつかつどう しえん さいたま ねざ でんとう
大切なものです。文化芸術活動の支援や埼玉に根差した伝統

ぶんか まな きかい かくじゅう ぶんかげいじゆつ しんこう でんとうぶんか
文化の学びの機会を拡充し、文化芸術の振興や伝統文化の

けいしょう はか
継承を図ります。

ウ スポーツは、しんしん けんこう ほじ ぞうしん しやかい
心身の健康の保持・増進だけでなく、社会のル

まも くんれん せいしょうねん けんぜんいくせい ちいきしやかい
ールを守る訓練にもなり、青少年の健全育成や地域社会の

さいせい けんみんせいかつ ためん こうか きたい
再生など県民生活において多面にわたる効果が期待されます。そ

とうきょう けいき しょうがい
こで、東京オリンピック・パラリンピックなどを契機に、生涯

した とりくみ じゅうじつ
にわたってスポーツ・レクリエーションに親しめる取組を充実

します。

きょうしょくいん ししつ のうりよく こうじょう はか
(7) 教職員の資質・能力の向上を図ります。

きょういくがくしゃ ほんよう
アメリカの教育学者のウィリアム・アーサー・ワードは、「凡庸

きょうし はな きょうし せつめい すぐ きょうし みずか
な教師はただ話す。よい教師は説明する。優れた教師は自ら

たくえつ きょうし ころろ ひ い
やってみせる。そして、卓越した教師は心に火をつける。」と言っ

がっこうきょういく しつ いじこうじょう はか こども
ています。学校教育の質の維持向上を図るためには、子供た

ころろ ひ すぐ しどうりよく しめいかん か そな
ちの心に火をつけるような、優れた指導力と使命感を兼ね備え

きょうしょくいん いくせい ふかけつ きょうしょくいんどうし まな
た教職員の育成が不可欠です。そのため、教職員同士が学び

あ たか あ きかい じゅうじつ
合い、高め合う機会を充実します。

3 明日の埼玉教育のために

きょういく がっこうきょういく な た しゃかい へんか
教育は、学校教育だけでは成り立ちません。社会が変化している

いま こうじょ おも お きょういく すす むずか
今、「公助」に重きが置かれた教育を進めることは難しくなります。

こども ほごしゃ じじょ たいおう
また、子供たちや保護者による「自助」だけでも対応できません。

がっこうおうえんだん ちいきみまも かつどう み がっこう かてい
学校応援団や地域見守りの活動に見られるような、学校と家庭と

ちいき きょうりょく あ きょうじょ かんてん じゅうよう
地域が協力し合う「共助」の観点がますます重要になってきて
います。

けんみん みなさま さいたま こども ひとりひとり のうりょく
県民の皆様とともに、埼玉の子供たち一人一人が、その能力と

かのうせい かいが がっこう かてい ちいき ひと こども
可能性を开花させられるよう、学校、家庭、地域が一つとなって子供た

はぐく かんが
ちを育てていきたいと考えています。

あす ちいき さいたま にほん ささ こども しょうらい
明日の地域や埼玉そして日本を支える子供たちの将来のために、

さいたまけん きょういく がくじゅつ ぶんか しんこう こんぼんてき ほうしん
埼玉県の教育、学術、文化、スポーツの振興の根本的な方針と

さいたまきょういく しんこう かん たいこう さだ
して、ここに「埼玉教育の振興に関する大綱」を定めます。

さいたまけん ち じ おおのもとひろ
埼玉県知事 大野元裕